

第10回教育委員会定例会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称		第10回教育委員会定例会議事要録
事務局（担当課）		教育部庶務課
開催日時		令和4年11月10日（木） 午後13時30分
開催場所		教育委員会室
出席者	委員	金子 智雄（教育長）、 樋口 郁代（教育長職務代理者）、村瀬 愛、大澤 誠
	その他	教育部長、庶務課長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、教育センター所長
	事務局	庶務課庶務グループ
公開の可否		一部公開 傍聴人 1人
非公開・一部公開の場合は、その理由		報告事項第6号は、人事案件のため非公開とする。
会議次第		<p>報告事項第1号 令和4年第三回定例会 決算特別委員会の報告について （庶務課）</p> <p>報告事項第2号 新型コロナウイルス感染症の発生状況について（学務課）</p> <p>報告事項第3号 学校給食への公費補助について（学務課）</p> <p>報告事項第4号 令和4年度授業改善に向けた取組について（指導課）</p> <p>報告事項第5号 『豊島の図書館（令和3年度事業報告）』の発行について （図書館課）</p> <p>報告事項第6号 会計年度任用職員（学童指導員等）の配置について （放課後対策課）</p>

開催日 令和4年11月10日

開催場所 教育委員会室

金子教育長)

宜しくお願いいたします。第10回の教育委員会定例会、開催させていただきます。
署名委員をお願い申し上げます。樋口委員、村瀬委員、宜しくお願いいたします。
本日、傍聴希望者1名ということです。宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

金子教育長)

では、お入りください。

<傍聴者入場>

金子教育長)

では、次第に沿ってまいります。今日は報告事項が6件ということでございます。順次進めてまいります。

(1) 報告事項第1号 令和4年第三回定例会決算特別委員会の報告について

金子教育長)

まず、報告事項第1号、令和4年第三回定例会決算特別委員会の報告について、ご説明をお願いいたします。

庶務課長。

<庶務課長 資料説明>

金子教育長)

丁寧なご説明ありがとうございました。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。内容もたっぷりありますので、お持ち帰りいただいて、お読みいただいて、また次回でも結構ですので、ご質問、ご意見いただければと思います。

幾つか、複数の方から出ているような論点もあるということで、給食の問題です。特別支援の問題というところは、皆さんの関心が高いということが分かった次第です。

やはり世相を反映して、給食費のこともそうですが、保護者負担の問題というところにかかなり関心があるということはよく分かりましたので、こちらも、その対応をしてみたいと思います。

では、報告について、承りましたということにいたします。

(委員全員異議なし 報告事項第1号了承)

(2) 報告事項第2号 新型コロナウイルス感染症の発生状況について

金子教育長)

報告事項第2号に参ります。新型コロナウイルス感染症の発生状況につきまして、いつものようにお願いいたします。

学務課長。

<学務課長 資料説明>

金子教育長)

ご報告終わりました。大人の数も含めた全体を見ていますと、3割増し、4割増しという、第8波だというようなニュースも、地域によりますがある中で、今のところ、足下では、子供たち頑張っているというところかと思いますが、この先も分かりませんので油断なきようにということです。

大澤委員、何かコメントいただけますか。

大澤委員)

検査が有料化する可能性が非常に高いです。大体1回が1万円ぐらいかかり、それを買うという感じに言い出しています。我々のところで、医療用のものを売ってはいますが、売値が大体2,500円ぐらいです。したがって、それを買って、何個かは持っていて欲しいと言い出しています。

金子教育長)

分かりました。今後、冬にかけて、今みたいな検査のことがまた改めて、取り沙汰されるかもしれません。

他、宜しいでしょうか。

では、気をつけながら参りたいと思います。ありがとうございました。

(委員全員異議なし 報告事項第2号了承)

(3) 報告事項第3号 学校給食への公費補助について

金子教育長)

続いて、報告事項第3号、学校給食への公費補助につきまして、先程も少し話題になっておりましたが、区としてはどうしているかということでございます。

学務課長。

<学務課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明終わりました。ご質問、ご意見ございましたらお願いします。

どうぞ、村瀬委員。

村瀬委員)

学校給食のいろいろな意見がありますが、豊島区は豊島区なりに努力されていると、保護者の目からも感じます。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

公費補助、この制度は、今全てのものが高騰しているので、大変ありがたいと思います。

米の購入代に対する補助という考え方で補助額が決まっている。つまり、米、野菜、全て値上がっている状態の中で、米代の補助という考え方でいくということですか。

金子教育長)

学務課長。

学務課長)

米購入を前面に出しているのは、政策目的として、米飯給食の推進、食育の推進ということがあるからです。週2回だけの補助をしていたときには、まさにその考えでした。一方で、今の状況で、今回、先程の例が差額相当分というようなご説明さしあげましたが、週4回分の米購入補助ということです。豊島区の今目標にしているのが、米飯給食週4回分ということで、そこにお金を全部当てられますが、米しか充てられないということではありません。仮にですが、少し端数で余れば、それは食育に使ってくださいというような整理をしていますので、結果的には米だけではなくて、プラスアルファ物価高騰にも使えるように、しっかりとお支えしていると思っております。

金子教育長)

酒井委員、どうぞ。

酒井委員)

お考えよく分かりましたが、今後どの程度物価が上がるのか分かりませんが、食材費が全体的に高騰していく中で、補助額の決定がもう少し総額の値上がりに対する補助という考え方を、どこかで取り入れられないかと思えます。

金子教育長)

物価スライド方式という。

酒井委員)

もともと米飯の促進ということがあったので始まった制度だと思えますが、今の状況ですと、給食費全体の高騰をどう補助するかという考え方をどこかで取り入れておかないと、上手く回っていかないかと思えます。

金子教育長)

学務課長。

学務課長)

予算の権限を持っていない教育委員会としては、まさに同じような考え方持っているところですが、なかなか実際に獲得するときには23区の状況などと、比較されることもあり、こちらも、いつも頭をひねっているところではあります。出来るだけ、そういう実際の経済状況に合わせて保護者に負担がかからないように、こちらとしても良い説得材料をいろいろ集めて、タイムリーにそういう政策が打てるように努力していきたいと思えます。

スライド的なものが構築出来るかどうかはまた研究させていただきます。

酒井委員)

一つの意見として。

金子教育長)

よく分かります。

私費会計で、おかず等々、御飯等々やらせていただいています。人と物はこちらでやりますという、仕分です。それに対して、無償化という要望もあるわけですが、それは少しおいておきます。

酒井委員)

それは、どのようなことですか。

金子教育長)

幾つかの区で値上げがありました。つまり給食費を払う方のお金の値上げをするかどうかで幾つかの区が判断をしました。本区は、当面の間、値上げをして、ご負担を上げるということはしたくないというのが、基本姿勢であります。実際には、小麦代もあります。作る方も、同じような栄養価のあるものを作るのに、いろいろ工夫をしています。値上げが激しいものを少し避けて、栄養価は落とさず代替出来ないかとかです。かつ一番大事なのは、ご負担をさらに上げることをしてしない。全部が上がっていても困ります。そこでも一応踏ん張っているということですので、今後も話が出てくるかもしれませんが、工夫の一つということで、ご理解いただきたいです。宜しいですか。

酒井委員)

ありがとうございます。

金子教育長)

他にございますか。宜しいですか。

では、本件はそういうことで了解をしました。

(委員全員異議なし 報告事項第3号了承)

(4) 報告事項第4号 令和4年度授業改善に向けた取組について

金子教育長)

報告事項第4号へ参ります。令和4年度授業改善に向けた取組について、小・中学校における授業改善のご報告です。お願いいたします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご報告終わりました。ご質問、ご意見ございましたらお願いします。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

前回ご報告いただいた各種の調査から各学校がきちんと計画を立て、それを実践し、振り返りに繋げるという道筋をしっかりと持っていて、方向性を示してくださっていることに感謝します。非常に分かりやすい。今日のご説明も大変分かりやすく参考になりました。ありがとうございます。

少し感想をお話しします。主体的な学びというところですが、誤解のないようにお聞きいただければと存じますが、任せるというのは単に任せているわけではありません。この間のご発表でもあったように、大事なものは、任せる前に教員は何をきちんと指導しているかということなのです。それは、恐らく後ろのページの巣鴨北中学校の基礎基本の定着というのはまさにここでありまして、各教科、総合や生活もそうですが、各教科でとりわけ、しっかりと自分で知識技能を加える授業を展開してなかったら、任せるということも、使うのは非常に難しいと思います。

ですから、ただ、子供たちがやりたいからやらせているという主体ではないということ、これを全先生方にご理解いただけたら本当に嬉しいと常々思っております。

また裏側に参りますと、その対話的というところですが、ここで示して下さったところは、対話の意味をしっかりと管理者として、そしゃくをしながら、各学校でやってくださっているのを感じます。とりわけ、私は常に申し上げているのは、本時のめあてと本時の振り返りが正対してなかったら、子供には力がかからないという話をよくしますが、そこをしっかりと取り組んでくださっていること、大変嬉しく思います。

最後に、そのめあてをどうつくるかというところが(3)の①の朝日小学校なのではないかと思えます。子供がやってみようと思う、今日、これで頑張ってみようと思うようなめあてをどう提示しているか、それがゴールに繋がるわけですから、それで見通しを持たせていけば、自然と主体的になっていくのではないかと思えます。それぞれのこういう実践が充実されていくことを願うばかりです。

金子教育長)

ありがとうございます。

他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

先日は、授業参加させていただいて、先生方が、この朋有小学校と南池袋小学校のファシリテーターとなるという、そのねらいをきちんと共有されて、先生方が全員そちらに向かって、指導能力を高めていこうという様子が分かって、大変勉強になりました。研修が全体で進んでいると感じました。

全体として、非常に授業改善の取組が進んでいるというのは、重々理解していますが、一方で、学校によって、随分、学力の状況が違う中で、学校ごとに課題が、多様であるということはどう踏まえ、各学校がそれに応じた授業改善の取組をどのようにしているのか知りたいです。学校によっては、外国に繋がる子供たちが多かったということですが、そういう子供が多い状況の中での授業というのが、それはこの学習している全体のねらいとは、また別立てかもしれませんが、そういう個別の課題に対する指導力、授業改善というポイントもやはりあるのではないかと考えていまして、そこも少しご検討いただきたいということです。

金子教育長)

何かコメントありますか。現時点で取り組んでいることですか。

指導課長。

指導課長)

酒井委員、おっしゃる通り、私たち、全体的にどこに行こうということが分かるように見て、課題のところは、今回ここには表れていないというのが正直なところ。学校個々の課題に対してというときには、やはり学校それぞれに対応してあげたいと思っております。また代表的な課題等があり、共有出来るものがあれば、校長会で共有したいと思っております。

酒井委員)

ありがとうございます。

金子教育長)

私も質問していいですか。前から思っていました、体育の先生は、当然、教員1人1台タブレットを持っていますから、どのように使うのか。授業で上手くでんぐり返しを撮って、こういうところが足らないと、見せて、そうか、こうやってやるのかというのをとても分かりやすく示しているという例も拝見していますが、使用率というか、必ず使っているのか。たまたま私がそれを見たのが多かったのか、全然使わない人は、やはり使わないのか、その辺りの状況、分かりますか。

指導課長。

指導課長)

学校間の差もありますし、同じ一つの学校の中でも、やはり得意な先生と、少し苦手意識を持っていらっしゃる先生で差があるというのは事実です。

今、体育のお話があったので、体育は多分一番使えているのではないかと、私は思っています。

今までは、こういうビデオを見て、ビデオテープを戻して、1台しかないものでしたが、全員出来るというところが体育のフィードバックに関しては大事だと思っています。

英語でも吹き込んで、後で聞けるという機能があります。一人一台持っているということで将来性がありますが、ヘッドセットがいるなど、いろいろな課題があります。進んでいったり、進んでいなかったりします。良い事例を持って、広めていきたいと思っております。

金子教育長)

ありがとうございます。

今、ヘッドセットの話も出てきている。何が言いたいかという、教科によつての違いですか、先程、学校の状況による違い、これはもちろん、一番大事なことで、子供が大事なので、それを確認すること。

それから、横断的に見たときに、特にデジタルの使いについては、フィットするものと、

そうでもないものというのがあるように、少し言われ始めているので、文部科学省も全部を急にデジタル化していないのです。したがって、徐々にやってきました。小学校においては、専科にまだなっていないので、そういう意味では、先生による違いも出てくると思います。全員が体育をやる、指導するということです。その辺りも少し気にはなっていたので、聞いたのですが、また、いろいろな形で整理された、私としては、そういう教科による違いというのも報告がほしいと思った次第です。

どうぞ、村瀬委員。

村瀬委員)

教育長が言われたように、体育、人によってどうなのかとおっしゃいましたが、運動会の練習や短時間で覚えなくてはいけない踊りなど、得意な子供はすぐに覚えますが、覚えにくい子供がいます。そういう子供に担任の先生が教室で踊っているところを撮って、持ち帰り、家で練習するなどしています。その結果、運動会や学芸会などでも後れを取りにくくなったと、保護者の方が言っていられました。

金子教育長)

運動会についても、かなりダンスが多いです。結構複雑な振付けをよく覚えられたと思ったことが幾つかの学校でありました。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

補足ながら、教科による差というのも、もちろんあると思いますが、単元による差もあります。それから一つの単元が例えば10時間扱いなら、どの時間も同じだけ使うという話ではないわけです。あくまでも道具なので、このときはこれでやった方が良いというところをやっているのです。一概に、私はこの場面ではこうしようというのではなくて、もっと使える場面を探してみようとか、逆にこういうときはきちんとこうやって、対面してやるべきだとか、そういうことを深めてほしいと思います。

金子教育長)

ありがとうございました。正解が出たようです。単元によっては、体育の中でも違うし、英語の中でも違うということもあります。そこまでいくと、授業も、一体的な、先生方の工夫の成果というのがあります。また、いろいろな機会でこういう取組もあるなど、具体的に教えてもらえると、分かりやすいです。あるいはこの間のように研究等でも結構ですので、現場をまた見られたら良いと思っております。

宜しいでしょうか。いろいろなご意見、ありがとうございました。

では、報告事項第4号はこれまでといたします。

(委員全員異議なし 報告事項第4号了承)

(5) 報告事項第5号 「豊島の図書館(令和3年度事業報告)」の発行について

金子教育長)

続いて、報告事項第5号、「豊島の図書館」の発行について、ご紹介いただきます。

図書館課長。

<図書館課長 資料説明>

金子教育長)

本来こういう事業報告、いろいろなデータも集まったので、昨年度分ですが、ご覧くださいで終わりですが、事前の打合せの中で、是非、最新で取り組んでいることについて、口頭で良いので、少しお話ししてくださいとお願いして、良かったと思います。いろいろなことをやっていただけていると思っております。

少しご指摘のあった16ページでも結構です。今の話も含めて、何かご質問、ご意見ございましたらお願いします。

宜しいですか。

見た感じで、16ページのところ、特に児童書が、この区分について、よく分からないところもありましたが、とにかく一般書より、児童書の方の伸びがすごいというのは、やはり外に出られない分、間違えなく、家で読んでいると思います。かつ、学校は全部SDGsをやっているの、昨日もSDGsフェスティバルがありましたが、かなりの影響を与えるだろうと私は思いました。どうして、そのように思ったかという、PTAの方が私の予想を超えて関心を持ち、自分たちで勉強したいから、阿部先生を、ティーチャーに呼んでいいですかということが多々ありました。恐らく、子供が何をやっているのだろう。あるいは子供から聞かれて、お父さん、こういうのを知っているかというようなことが想像されます。民間の会社でもバッジをつけているという話もありますが、全体として、何かそこを切り口にして、もともとやっていた勉強も中に十分入っています。海はどうなっているのか、山はどうなっているのかという勉強もあるわけですが、それが全部切り口として、SDGsでそうなっているのかということで、上手く子供と大人と一緒に、生涯教育の部分も含めて進むような良いトレンドになれば、一番良いと思っております。私の意見ですが。

何か他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

非常に詳しく説明していただきました。子供たちも活用している施設だと思ひまして、今のSDGsの話もそうですが、学校での今の取組と、こういう図書館、地域図書館とが連携すると、子供たちの学びが広がっていく、あるいは保護者の方の学習にもなるという、それを考えますと、それ以外の様々な、要するに区で教科書を指定するので、そうすると、大体この時期はこういう単元、その単元の内容が地域図書館に行くとき少し関連する本が児童書のところに並んでいるとかという、子供たちも関心を持って、何か読めるかなという。そういう意味で、その辺りの情報交換を上手くやっていると、本の陳列の仕方も随分変わってくるかと思ひます。今の話聞いていて、大きな展開が出来ると思ひたのが一つです。

それから、もう一つは、児童書も、大人の方が入っていくということがあるということ、私も、児童書のコーナーは、大人は入りにくいところもありました。もう少し入れるように出来ないか。図鑑など、大人が読んでも、非常に面白いです。

金子教育長)

水準高いです。

酒井委員)

高いです。児童と一般という区分は、従来ずっとそうですが、もっと考えようがあるかと思えます。

最後に、少し触れさせていただきたいのですが、全体として、令和3年、非常に上がっているのですが、点字のところが、だんだん下がっています。少し気になっていまして、点字文庫の利用が伸びないのは何か理由はございますか。

金子教育長)

ひかり文庫。

どうぞ、図書館課長。

図書館課長)

点字の方では、大きな理由がございまして。デジタル化に移行しております。利用者の方がデジタル化に移行しております、民間のサピエという、サイトみたいなのがありまして、図書館で作った音声をそちらで利用することができます。

酒井委員)

そうですね。音声で入ってくるから、点字は必要ない。

図書館課長)

ここに登録するような仕組みがありますが、そちらを使っていらっしゃる方もだんだん増えてきています。

酒井委員)

そういうことですか。

図書館課長)

はい。点字を読まない方も増えてきている状況でございまして。

酒井委員)

分かりました。ありがとうございます。

図書館課長)

その辺りは、少し情勢が変わってきているところです。

酒井委員)

変わってきているということですか。分かりました。ありがとうございます。

金子教育長)

質問させていただいてありがとうございます。点字などいろいろなトレンドがありますし、新たに機器の発達もあります。情勢に変化がありますので、教えていただければと思って

おります。

宜しいですか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

コロナ禍の大変な中をいろいろな工夫をしながらしつらえていただきまして、ありがとうございます。そして、また利用者が増えたという嬉しいご報告いただいて、まさにキャッチフレーズの「にぎやかな図書館」、「にぎやかな」というのは、わいわいではなくて、身近に立ち寄れるようなというように私も捉えさせていただいていますが、そうした地域図書館として、これからもますます充実することを願っております。

もう一方、モデル事業の件でございます。そのようにしてくださっているというところが大変、嬉しいです。どんなふうに変わっていくのか、楽しみにしております。その子供たちが中学生になったときに勝負だと思います。小学生のときは読みますが、この間、大学生に、ここ3か月で何冊本を読よみましたかと聞きましたら、ゼロと言った大学生が3分の2もいました。これは大変なことだと思いました。是非、本を読む大人になっていくてくれたらいいと思うところです。

一点、お願いは、やはり地域図書館と学校図書館の連携で子供のことも大事ですが、教員です。教員が授業の中でもっと活用するには、司書の方がプロフェッショナルですから、もっと相談すればいいと思います。その辺りの視点を、さらに広げていただけたら嬉しく思います。

金子教育長)

宜しいですね。

では、またモデル事業等々、ご報告楽しみにしております。どうもありがとうございました。

図書館課長)

ありがとうございました。

(委員全員異議なし 報告事項第5号了承)

金子教育長)

公開の議事は以上となります。これ以降は人事案件になります。宜しく願いいたします。ありがとうございました。

金子教育長)

一旦休憩とします。

<傍聴者退場>

金子教育長)

では、休憩前に引き続きまして、会議を再開いたします。

(6) 報告事項第6号 会計年度任用職員(学童指導員等)の配置について

金子教育長)

報告事項第6号です。会計年度任用職員の配置について、ご説明をお願いします。
放課後対策課長。

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項第6号了承)

金子教育長)

では、以上をもちまして、第10回の教育委員会定例会については、閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

(午後2時45分 閉会)